

「三重の教育を考える県民懇談会」の開催結果について

1 開催趣旨

県内各地域において、「三重の教育のあるべき姿」についての県民の方々の意見を聴取し、次期の三重県教育ビジョン（仮称）の審議過程に反映させる。

2 開催日時、会場、参加者数

開催日時	開催地域	参加者数（人）				進行
		県民	県会議員	推進会議	教育委員	
1 1月15日（土）	松阪市	21	0	5	1	梅村委員
1 1月23日（日）	尾鷲市	15	1	1	1	山門委員
1 2月14日（日）	四日市市	18	1	7	2	山田委員
（計）		54	2	13	4	

※県民の男女別内訳は、男28人、女26人

※教育委員は教育長を除く数

3 いただいた意見の概要

- （1）全体を通じて、学力の向上や子どもたちに育みたい力に関する意見が多く出されました。
- （2）学力向上については、全国学力・学習状況調査の結果に一喜一憂せず、テストで測ることができる学力だけでなく、芸術や家庭などの教育、感性を育むことが大切であるという意見が多くありました。
- （3）子どもたちには、コミュニケーション力など人とつながる力や共感する力、郷土愛や体力などを身につけてほしいという意見が多くありました。
- （4）学校や教員に対しては、学校現場の多忙化を懸念する意見、外部人材の活用が必要であるなどという意見がありました。

4 主な意見

【三重県の教育について】

- 三重県の持つ良さ、子どもたちと地域の行事に多く参加しているという強みやこれまで培ってきた成果を教育に生かしてほしい。
- 全国学力・学習状況調査の結果に一喜一憂せず、三重県らしい教育を進めてほしい。
- 子どもたちがスキルだけでなく、ウィル（Will）＝夢がもてるような三重の教育であってほしい。
- 子どもの可能性を広げる教育、知・徳・体のバランスの取れた教育、感性が

磨かれる三重の教育であってほしい。

- 三重県は自然豊かなところであるため、自然と共生する教育に取り組んでほしい。
- 子どもたちの幸福感に結びつく教育施策を行ってほしい。

【子どもたちに育みたい力】

- 第1には基礎学力、第2は人権感覚、第3は郷土愛。基礎学力は、特に自学自習のスキルや意欲が必要である。また、人権感覚はグローバルに、ローカルに活躍するためにも重要である。そして、地域社会を愛し、貢献していく意識を持つことは学ぶことへのモチベーションにもなる。
- 学力も大切であるが、健康な心と体が大切である。
- 社会で求められるのは、人とつながる力、互いを認め合う力、コミュニケーション力、体力である。
- 社会を生き抜くためには、チームで仕事ができる力、問題を解決していく力が必要である。
- 心豊かな子ども、地域を愛する子どもが育ってほしい。将来地元を離れたとしても郷土を愛する心を持てるようになってほしい。
- 様々な背景から自信がもてない子どもがいる。子どもの個性を伸ばし、将来に夢を持てるような教育であってほしい。

【全国学力・学習状況調査について】

- 全国学力・学習状況調査の結果について、全国平均と比べることに違和感がある。学習の到達度を見るなど、必要な学力がついているのかという観点が大変である。
- 全国学力・学習状況調査の対象となっている国語・算数（数学）の結果だけに一喜一憂してはならない。家庭や芸術なども学力の一部であり、大切である。
- 県教育委員会が、全国学力・学習状況調査のランキングだけを追っているような印象があり、競争社会に戻っているのではないかと危惧する。
- 全国学力・学習状況調査について、学力調査のことばかり注目されているが、学習状況調査も重要である。三重県は、学校に行くのが楽しいという項目が全国平均よりも高いことや、ゲームをしている時間が全国平均よりも高いことなどに注目すべきである。

【学力について】

- 学力は、テストの点に現れるものだけでなく、興味を持ち探究していく力や、社会に出た時に生きていくことができる力である。学力向上のためには、学

び合いや仲間づくりが大切である。

- 子どもたちが地域の中で、豊富な体験活動に取り組むことで、主体的に学ぶ力がつき、学力につながる。自ら学んでいく過程を大切にすることで、子どもたちの自信や自尊心、個性へとつながっていく。
- 基礎的・基本的な知識が身につけていない子どもも結構いる。生きていくために基本的な学力は必要である。
- 学校現場は家庭学習がしっかりしていないと言い、保護者は教員の教え方が悪いというような溝を埋めないと、三重県の学力は向上しないのではないかと。

【特別支援教育について】

- 特別支援教育は、障がいのある子どものみならず、障がいのない子どもにとっても、効果が大きい。
- 発達障がいは、生後の環境が非常に重要であり、乳幼児期からの教育効果はきわめて高いので、乳幼児期からの特別支援教育を推進すべきである。また、子育てにおいて特別支援教育の視点を取り入れると子育てに悩むことも少なくなるという効果もある。
- 特別な支援を必要とする生徒が高校へ進学する際に様々な課題に直面している実態がある。
- 通常学級・特別支援学級に関わらず一緒に楽しく学べる授業のユニバーサルデザインに取り組むことは重要である。

【芸術・感性等について】

- 道徳教育を推進すべきである。
- 美術や音楽など文化的なことをもっと大切にしていけるべきである。いろいろなことを吸収できる心のよわらかさ＝感性が大切であり、感性を育てなければ学力は伸びない。
- 子どもたちの感性を育むため、小学校に音楽や図工の専科の先生を配置してほしい。
- 地域の方との交流など、子どもたちが多くの人と関わることにより、感性が育まれていく。
- 子どもたちが自分を表現したり、調べたことを発表したりする機会が減っているのではないかと。
- 東紀州を芸術の先進地域にするなど、地域の特性を出した教育を打ち出してはどうか。

【体力・スポーツについて】

- 東紀州では、スポーツをする環境が他の地域に比べ整っていない。本格的にスポーツに取り組みたい子どもは、他地域に進学している。
- 学力の向上のためには、体力が必要である。また、社会に出た際にも、体力は大切である。
- 打たれ弱い、ちょっとした失敗で落ちこむ子どもが多い。他学年の子どもと一緒に遊ぶ機会が少ないことが原因ではないか。勉強だけでなく、スポーツに親しみ、体力をつけることは重要である。

【教育環境について】

- 子どもたちが自己実現し、達成感を感じることができる場を与えていくことが大切である。
- 三重県は外国人の割合が多く、子どもの頃から接する機会が多いため、抵抗感が少ない。そういう環境をうまく生かした教育ができるとよい。
- 学校は、子どもたちが勉強するだけでなく、多くの人と接し、共感するなど、広く学ぶ場であってほしい。
- 少人数教育を推進してほしい。
- 少人数学級の成果が出ていない中、35人学級を40人学級に戻すことに賛成である。
- 県立高校に男子校、女子校を導入し、希望する生徒に選択肢を与えるべきである。
- 子どもたちがアルバイトをしなくても勉強に集中できるように、給付型奨学金を充実してほしい。

【学校の小規模化について】

- 子どもを小規模校ではなく、児童生徒の多い小学校に通わせたいという気持ちがある。
- 少子化が進み、小中学校の統廃合が進んでいる。学校は地域の希望であり、できる限り存続してほしい。僻地や児童生徒数が少なくても、子どもたちが夢を持てるよう、充実した教育環境を整えてあげたい。
- 小規模校は地域との関わりが密接であり、子ども一人ひとりが活躍できるという良さがある。そのような観点からも安易に統合せず、存続して欲しい。

【学校施設について】

- 安全面も配慮した学校施設となるよう環境整備してほしい。遊具が使えない

学校があると聞く。

- 学校施設に郷土の特色を生かしていくと、子どもたちの郷土愛が育まれる。住んでいる地域を誇りに思うことで、自己肯定感が育まれる。

【教員等について】

- 学校現場では、人も物も予算も不足している。教員にゆとりがないので、教員が子どもと向き合える環境が必要である。
- 教員は多忙であるため、地域ボランティアや学校アシスタントの力が必要である。
- 教員の適性を把握して採用するとともに、採用後に再度適性を評価するような仕組みも必要ではないか。
- 教員は保護者等のクレームに左右されることなく、良いこと、悪いことを毅然とした態度で指導してほしい。
- 新任教員が早期に退職してしまうケースがある。教員は教育現場に出る前にいろいろな経験を積むことが重要ではないか。
- 学力向上について、現場の教員は具体的に何を意識して指導しているのか。学力は知識だけではないので、これから教員をめざす人や若い教員が学力とは何なのかを考える機会が設けられたらよいのではないか。
- 外国人児童生徒が増加しているため、保護者対応等も含め、通訳を学校に常駐できるとよい。
- スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーは、効果が大きいので、もっと配置を充実してほしい。
- 学校図書館の充実、司書や専従スタッフの配置があるとよい。

【家庭・地域について】

- 非常に教育熱心な保護者とそうでない保護者の二極化が進んでいる。
- 社会に出た際に必要な礼儀や規則正しい生活などは、家庭でしっかり教育しなければならない。
- 子どもが勉強や部活動などで力を発揮することができるよう、大人たちが支え、良い教育環境をつくっていかなければならない。
- 保護者が郷土を愛する心を持てば、子どもも郷土を愛するようになる。
- 地域が教育に関わっていくことは重要であり、コミュニティ・スクールに取り組んでいきたい。
- 地域の活性化について、市町と高校生、大学生が話し合う企画があり、有意義であった。市町と県立高校がもっと連携した取組を広げていってはどうか。